

「2021 年度 地域再生概論」(6 月 18 日) 小レポート

①全体を通じての感想/印象

②「地方就職は選択肢に入るか？」

Yes/No と、その理由

1 解答欄：

1 全体を通じての感想/印象

自分がどんな仕事をやりたいのかを考える前から「安定」を考えてとりあえず大企業や有名企業に入らなければという想いがどこか多くの大学生にはあるのではないかと思います。もちろん地方にも有名企業、優良企業もあるのですが、有名な企業が多くあったり、華やかな生活にあこがれて東京のような都会ばかり見て、流れてしまうのではないかと思います。地方就職のメリットで、人材が不足しているので主体的に仕事ができ、自分が必要とされる、いつのまにか仕事のスキルが身についている点を挙げられていますが、その分自分で考え、行動力が必要とされることを想定するとクリエイティブではない・要領の悪い人間にはもしかして荷が重いのかなと感じてしまいました。

2 地方就職は選択肢に入るか

実家に近い近畿圏内という条件で地方就職は選択肢に入ります。今までは就職は絶対大阪でと考えていたのですが、兄弟が昨年から滋賀県の長浜市に転勤になり、長浜での生活を垣間見るうちに車さえあれば生活が非常に豊かであるように感じました。他にも現実的な目で考えると、東京と地方で初任給は変わらないのに兄から家賃や駐車場代や物価を聞きうちに、金銭面でも地方が魅力的に思います。また東京に就職した友達が孤独に苦しんでる話を聞く一方で、兄は地域の飲食店に通う中で店主や常連の人と仲良くなるなど、ゆとりのある地方ならではの体験を楽しんでいるように感じてこの一年間で地方就職も現実的なものになりました。

2 解答欄：

① 自分がいわゆるローカルな場所に住んでいるという自覚がなんとなくあったが、少なくとも大阪府の中の一部の地域であり、ここよりももっとローカルな地域があるのだろうと思うと、割と恵まれている方なのではないかと思った。そういった地域では、人材さえいけば今ある価値を十分に広げることができる可能性が秘められており、都会ではごく普通なものもしくは小さな一手だとしても、そこでは革新的な大進歩であったり、非常に興味深い仕事ができそうだった。

② 地方就職は選択肢に入る。自分が住んでいる地域は東京・大阪など大都市に住むお坊ちゃんお嬢ちゃんからして地方といえるだろう。もちろん地元で就職するという手もありではあるが、ここでいう地方というのは県外の話になるだろう。だとしても答えは YES である。理由は、地方は都会よりもつながりが強く、協力的であると感じている。都会に住んでいる人で、横の家とそのまた横の家と「苗字」が同じなんて人はおそらくいないだろう。私はそういったつながりの強い地方で、自分がつながりをより強くする接着剤として働きたいと思うからである。その地方特有の文化や伝統に触れ、それを絶やさないためにどれだけの人が汗と涙を流してきたのか、地方に住む私だからこそのわかる。そういった先人たちの灯を決して消さず、その地方に新たな価値を見出す一手を打つ仕事は非常に魅力的ではないかと思う。

3 解答欄：

1 地域で働いていくという選択肢に対するポジティブな観点からの授業であり非常に参考になった。特に

「ひとあわせ」の観点で地方の優位性を語るというのは私自身忘れてしまっている観点であった。都市に比べて劣る部分があることは受け止め、その中で社会的結びつきなどの優位性も存在することは考えていきたい。

2 YES 私自身現在大学4年生なのですが、地元奈良県の金融機関で就職する道を選びました。就職活動を主に奈良県内で働くことから考えていたのは、生まれ育った奈良県地域がより発展する為に何ができるのかということを考える上で、その課題に近い場所で経験を積みたいと考えたためです。しかし、地方で就職するにおいてその理由はやはり目的ファーストであり、都市に対しては優位性はほとんど無いというのが本音のところではありました。今回の講義でそれは誤った捉え方であり、地方はそれぞれが独自の魅力や強みを持っているということのを再認識し、地方就職というキャリアを選んだからこそ、そこに対してのアンテナは伸ばし続けるべきであると感じております。

4 解答欄：①私自身、現在4回生で就職活動を終えた身なので、「地域で働く」と言ったテーマの講義はとても興味深く、食い入るように講義動画を見ました。就職活動をしていると、大都市圏に本社を構える大企業に入社すること＝正解、のような印象を持てしまいます。私もそうでしたし、逆に大企業が正解ではないのかと問われると私にはまだ分かりません。しかし、講義を聞いて地方で働くということの面白さを知りました。その中でも印象的だったのが、ローカルには「信頼」「繋がり」つまりストーリーがあるという部分です。私が「働く」を考える際に大切にしている価値観がまさにその部分でしたので、とても印象的でした。私自身が「働く」を考える際に何を大切にするのか、自分自身のキャリア＝人生をどうデザインするのか、改めてじっくりと考えてみようと思いました。

②（条件付きで）YES

私は、地方就職は選択肢に入ると考えています。条件付きで、と書いたのは、地方で働く際に、人と人との繋がりがもてるかどうか、という点が大事になってくると考えているからです。①でも書いたように私が「働く」を考える際に大切にしている価値観が「信頼」「繋がり」という部分です。

しかし、私のなかでは、地方ってどこか排他的なんじゃないか、よそ者に厳しいんじゃないかといった印象があります。ですので、そういった可能性が払拭されれば、私は地方就職も選択肢に入ってきます。また、東京や大阪といった大都市で若い時期を過ごし、やがては地方に移住して心身ともに豊かに過ごしたいという想いもあります。

5 解答欄：

① 感想

全体的にポジティブな内容で前向きになれた。昔を振り返らず、現在のもを活用することでひとやものをつなぎ、地域を盛り上げていくという姿勢がとても魅力的だと感じた。地域に着目した時、直面する課題を解決する手法として価値付けポイントや地方の特徴を通じて魅力を学ぶことができた。

② 地方就職について

結論はYesではあるが、実際にやってみないとわからないというのが本音である。

自分は今三回生であるが、自分の考え、周りの考え、親の考えが全て院進に傾いているため就職というものに対して真剣に向き合っているわけではないが、将来設計としてはやはり都会のほうが住みやすいのかなと思う。しかし、それだけで地方就職を選択肢から外してしまうのはあまりにももったいないと考える。その地方にも様々な人がいて魅力があるはずなのに話も聞かずに切り捨てるという選択はしたくなく、それを受け入れた上で考えるという選択をとると思われる。今はこの時世ということも相まってオ

ンラインで人と人が繋がり、交流ができていく時代である。実際、自分もそういった縁があって楽しく過ごせているので、大切なのは場所や距離ではなく人と人の心理的な距離が重要であると思う。なので地方就職を安易に切り捨てることはしないと考えている。

6 解答欄：

- ① 自分をしっかり持っている人は就職しても自分の役割が見えないため、仕事がいやになることがあるという点は自分も似たようなことを経験したことがあるので、自分も当てはまるような気がした。

以前受講した回の講義で花村先生も、講義で同じようなことをおっしゃっていたが、多様化するこれからの時代では、多様な価値付けの重要性が高まると感じた。その中で、価値は初めからあるものではなく、自分たちで価値を与える、あるいは発見するものだという内容が印象に残った。

これまでは地方にどのような企業があるのか、という点を考えたことがなく、いい企業は全て都市にあると考えていたが、実際には地方にもいい企業があるという話を聞いて、自分の視野を広げるためにも情報収集が重要であると感じた。

オリジナルのTシャツが面白かったことが結局一番印象に残った。

- ② No

現在は地方であっても、商業施設などが多くあり、生活するにはそれほど不便ではないため、生活する場所としては地方はそれほど悪くないと考える。また、コロナ禍によってリモートでの仕事が重視されるようになったため、地方での仕事の利便性が高まっている。

それでも、フルリモートで働くことのできる企業は非常に少ない。また、イノベーションを起こしている企業の多くは東京にあり、東京の方が新たな分野に取り組むことができるチャンスが多くある。また、先進的な企業が多くあるため、ビジネス的な刺激を受けることのできる「人との出会い」のチャンスも多いと考えられるので、東京での就職のほうが理があると考えます。

7 解答欄：

- ① 自分は将来海外で仕事しようと思っていたので、今回の講義内容はその逆だったのでとても興味深い内容だった。海外で働きたいと思いつつも、今回の講義で扱われた内容が、自分のやりたいと思っていた活動内容にマッチしていた。今はコロナウイルスの影響で地方問題がより浮き彫りになっている状態だと思う。そんな今こそ、ローカルな活動で地域を活性化できるチャンスだなと思った。

- ② 最初はNoだったがこの授業はYesに変わった。

なぜなら、もともと地方就職というと公務員というイメージがあったので、あまり職に魅力を感じなかった。しかし、今回の講義を聞いて、ベンチャー要素も強いなと思い、自分のやりたいことに近いと思ったのでYesになった。

8 解答欄：

- ① 私も地方から大阪に来たが、友達と出身地の話をするときは頭ごなしに自分の地元を「まじ田舎だわ〜」などということがよくあった。また、高校生の時には、地元の若者が地元を離れて働きに行くことが問題になっていると講話で聞いたので、今回の講義は興味深いなと思った。

- ② Yes

理由…地元にも全国的に有名であったり、一般人にはあまり知られていなくてもその業界では高い技術力を持っていて有名であったりといった企業もあるから。また、さまざまな企業で地元就職してくれた人に対する報酬(?)や援助などが実施されていることもあるから。親の近くでもあり、何かあ

っただけで駆けつけやすいのも良いと思う。

9 解答欄：①について地方で働く魅力について知れた。地方では人手がたりないが故に自身の創造性を他者との連携することで表現することのできる場が地方の企業にあって都市にはない魅力だと思った。色々な関わりの中でプロジェクトを完成させる喜びやそれを共有できる仲間存在は大きいと感じそれは地方であるからこそ色々なことに挑戦できるメリットもこめられていると思った。実際日本の就職でも不安定な派遣社員とかも存在するのでそれならば色々な関わりをもち自身の能力を活かせるような場を提供できる地方の方が自分らしく生きていくということに繋がっていきそうな印象もうけた。

②について地方就職は部分的には yes だと思っている。自身としては都市で最初に経験をしてなおかつ都市におけるコネクションもつくっておいた上で地方に貢献できると考えるからである。都市でのスキルが地方で必要とされる訳ではないと思うが実際の企業において日本企業が下火になっている最中での企業のプロジェクトとはどういうものなのかまたどういった展望で企業を動かすのかを知った上でそれを地方にいったときに用いたいと考えている。

10 解答欄：

- ① 再生の前提にあるのは「昔は良かった」という考え方だという話にすごく納得しました。今まで地域を再生しようと思った時に、特に意識はしていませんでしたが確かに昔の状態に戻そうといった意味で再生と言っていました。地域を再生すれば確かに自然は豊かになるし、私たちの生活もより良くなるのだろうと漠然と考えていました。しかし、そうではなくて今あるものを自分たちに良いように価値づけをするという考え方がすごくしっくりきました。自分の地域を価値付けしよう、他の地域の人々にその価値を知ってもらおうという意識で再生事業に取り組みれば自分の中でのゴールがはっきりして今までより前向きに再生事業に取り組める、素敵考え方だと思いました。
- ② 地方就職は私の中で、あまり前向きな選択肢ではないです。そもそも出身が大阪なのもあり私の中で就職の選択肢が関西か関東かだと思っています。自分の生まれ育った場所は思い入れもありますし自分の育った地域に貢献したいという気持ちもあるので、堺市に就職することはかなり考えています。都会で就職すると都会に住むことになると思いますが、交通の便がいいですし趣味のイベントなども都会で行われるのでやはり都会の近くで就職したいという気持ちは強いです。

11 解答欄：①最初は今日も動画見て課題提出さっさとしようという気持ちで見始めたのですが、とても面白くて大体1.5倍速でいつもは動画を見るのですが今回は倍速にできなかったです。私は2回生でこの授業を取っているため、就職というワードにまず反応しました。就職に対して今の時期から不安に思っていることが多かったため、今回の動画を見てただ淡々と同じ業務をこなす仕事もありだけど新しいことに自分から挑戦してみるのも全然ありだし世の中には私の知らない仕事もたくさんあるのだろうなと思いました。うちの大学は2年の後期からそれぞれの課程に分かれるのですが、私は人のところに興味があるため人間環境過程に進もうと思っています。ですが、今回の動画を見て、地域に貢献する仕事やその地域の特性を活かしたプロジェクトを自分が行うことで地域全体が変わるとかとても面白そうで、たぶんそれは社会環境過程だと思うので、今のまま人間環境過程に行くか社会環境過程にするか少し悩んでしまいます・・・。

②私は広島に就職したいなと考えています。地元が山口県と広島県の県境であるため、大阪で大学生活を終えたら地元に戻り働きたいです。だから yes です。高校の頃は大阪か東京に出たいという理由で大学を

絞ったのですが、いざ一人暮らしをしてみると家族やペットがとても恋しくなります。今まではそういった理由で就職先を決めていいのかなと思っていましたが、どのような地域にも、授業中の言葉を用いると、赤色のルートがあるはずというのを今回知ったため、地元で就職したいなという思いが強くなりました。

1 2 解答欄：

①

地域の昔からの伝統や資源を昔のように戻すのではなく、それに新しい価値づけをするというのは新しい考え方だと感じた。地域だけではなく、日本の社会も昔の固定概念に縛られず、新しい価値を見出し、いくことができれば、良い方向に進んでいくように思った。

地方は、新しい考え方や物をあまり受け入れない風潮があると思っていたが、それを受け入れてもらえるように地域の人たちとコミュニケーションをとり、自分の思いを伝えているのだと感じて、そのような熱意が伝わるのも人と人のつながりがある地域の良さのような気がした。

② 地方就職は選択肢に入らない

理由

自分自身、地方出身であり、確かにつながりが強く都会よりも周囲とコミュニケーションをとる機会が多いことは感じていた。隣の家の人とあいさつを交わしたり、自治体で集まり掃除をしたりするなど都会では見られないような文化も多い。その反面、世界が狭いように感じることもあった。例えば、地方のほうが、地元の優良企業への就職や公務員になることがよいという風潮が強いなどである。

地方の資源に新しい価値を見つけ出すこともできることは今回の講義で分かったが、私は狭い世界にいるよりも自分が知らない新しいものを知りたいと思うので地方就職は選択肢に入らない。

1 3 解答欄：

1 全体を通じての感想 印象

この授業では地方の企業に就職することの意義やメリットを学んだ。都会の企業、大企業と比べて、地方の企業には以下のような特徴がある。まず初めに、小規模な企業であるがゆえに人と人の関係が密であり、自分の存在の重要性を感じることができる。人数が少なければ、それだけ一人の影響が大きくなり、良い意味の責任を感じることができる。それに比べて大企業の社員は大きなシステムの末端であり、自分ではなくても良いと考える人が多い。次に、素早くスキルを身に付けられるという特徴がある。大企業のように細分化された仕事をするわけではなく、包括的な仕事を任せられるので、より短期間で多くの仕事ができるようになる。

今回このように地方の企業の良さを学んで、大会社に入社することを目標とするのは誤りだと思った。しっかり自分がしたい仕事を考えて、それが実現できる会社を探して、それが大会社だったのであればそこに入社する。このような考え方が必要だと思った。

2 地方就職は選択肢に入るか

私は、公認会計士を目標としているので、選択肢に入らない。そもそも企業が地方にあまりないからである。もし、途中で挫折するなどしたら地方就職も選択肢に入ると思う。

1 4 解答欄：

- ① 今回の講義を受けて、個人的な経験からとても共感ができました。私は、富山県から大阪府立大学に進学しましたが、元々富山県に魅力を感じられずに他県に進学したいと思っていました。しかし、地元に戻ったとき、富山県にいたときには感じられなかった魅力や良いところを認識することができません。このことから、地方から都市へ進学する人にとって、慣れというものが一番地方への就職の障害となっているのではないかと思います。これは、ずっと住んできた土地であるため、その県に何があるか表面上把握できている、またはその県が見た目上あまり変化していないと思い、魅力を感じづらいということです。そこで、地方の県の企業は、学生に向けて、地方の課題を共に解決し、常に新しい県の形にしていこうという情報を積極的に発信していけばよいと思います。このようにすることで、慣れという問題を解決できると思います。そして、新しい県の形を自分たちで追及し、それを実感できるという点が地方の企業の魅力のある点であると思います。
- ② Yes
理由・・・大学生活を送る中で地方の企業であろうがどこでも自分の幸せな生活ができることを目標とするという考えができたため。

1 5 解答欄：

- ① 自分自身、地元の熊本から大阪に出てきて大学生活を送っていたり、周りの友達も地方から都会の大学を選択していたりする人が多いので、地方で就職しようと思っている人は周囲には少ないのかなと感じた。大阪では地元のことを自虐するように語ってしまうことが多いが、一度地元を離れて、帰省した時に、食べ物や、自然の豊かさ、落ち着く雰囲気などの、やはり自分の地元にはかない魅力を感じた。授業では、大学生向けの地元や地方でのインターンの支援だったり、就活についての考え方だったりを知れて良かった。地元で就職するという点に関して、考える角度を変えて、選択肢の一つとして、自分が専門分野で活躍できそうな企業が地元にあるのか知りたいと思った。授業中に北川さんが、オンライン授業で顔を忘れちゃうだろうからと言って画面を切り替えてくれた時に、面白いなと感じた。他の授業は淡々と進んでいき、オンラインの授業は淡白で淡々としていて、どうしてもつまらなく感じてしまうので、こういう風な心の掴み方も重要なのかなと勉強になった。
- ② Yes
地元には、家族がいるし、今はコロナの打撃もそうだが、豪雨や地震と言った災害に見舞われがちであるので、地元での災害対応や環境保存に興味がある。だが、特に明確に目的があるわけではないが、地元以外で就職して様々なことを経験したい気持ちの方が今は大きい。

1 6 解答欄：

今回の授業では地域再生の意味を語り、再生の方法として雇用を紹介した。まず、地域の再生には価値を付ける事が重要であると言った。そこに住む人々が楽しくなるように地域に価値・個性を与えることは、地域に対する住民の愛着心が強くする。それは地域の発展に繋がる可能性が高い。地域のもの、たとえば伝統や歴史などにも価値を付け、それを重点的に発展していくと自然的にその地域に人が寄る。そのように価値を与えながら自分のやりたいものをすれば、豊かな生活ができると思う。

しかし、地域の再生にあたって地方就職がどうかと言うと、曖昧であるが、私はNoの考える。確かに、授業の通り、その地域に良い会社、良い会社の同僚が多く存在するかもしれない。が、どの会社に就職するのは結局、個人の選択である。各々の人には自分が望む水準の給料、自分が望む仕事の分野がある。もしくは、負担になる家賃などの要因で会社から離れた地域に住む人もいるはずである。そのように個人

の条件によって違うため、地方就職は選択肢になれないと考える。

17 解答欄

①今回の授業では、普段自分が考えることのないようなことを真剣に学ぶことができ、非常に有意義な時間を過ごせました。北川さんの、若者に滋賀の魅力を伝えることができるように、たくさんの工夫や企画をしていることは、地域活性につながる非常に大切なことであると感じ、とても素晴らしいと思いました。また、若者が持っている地方への偏見を少しでも改善できるような取り組みに積極的に参加したいと思いました。

②自分は地方就職に賛成です。理由としては、地方に就職することによって、実質的に働いている地方の活性化につながるのではないかと感じるからです。地方で働く人が増えるということは、地方に住むことを意味し、そこで衣食住をすることによって、経済が回り、地方に活気が生まれるのではないかと思います。また、地方に就職するのが反対であるという人の中には、地方は田舎であり、暮らすのに不自由であると思っている人も少なくないと思います。しかし、その地方にも、都会にはない魅力や良さがあるし、住んでみたら大きく印象が変わるなんてこともあると思います。また、人口が少ない分、人と人との関係が深く、地方就職によって多くの人々との関わりが生まれ、生きがいを感じられることも大きな利点であると考えます。

18 解答欄：

- ① 地域を「再生」させるという言葉に対する意見にとっても共感できました。悪くなってしまったもの元に戻すのではなく、長い間変わらずに来たものをより良いものに変えていくことが地域、特に都会ではない地方に必要なのではないかと考えました。新しいものを生み出すのではなく、今あるものの良さを再認識してそれを多くの人に広めていくという活動は素晴らしいものだと思います。
- ② 地方就職も選択肢に入っていると思います。ただ、自分から望んで地方の企業は選ばないと思います。まずは大企業への就職を目指し無理だったときの選択肢になると思います。「地方企業では稼げない」、「そもそも楽しそうじゃない」という何の根拠もないただのイメージだけが理由です。授業内でおっしゃっていたように、企業からの前向きな惹かれる発信があればイメージも変わり地方への就職を希望するようになるかもしれません。

19 解答欄：

- ① 今2回生の私は一年浪人したので、3回生の地元の友人らがインターンや就職のことを話していると、自分がまだやりたいことを見つけられていないことに不安を覚え始めた。働く上で、住みやすい地域や働きやすい環境、仕事内容、収入などさまざまなことが重要だと思うが、やはり働きがいがあるかどうかメンタル面で非常に大切だと学んだ。確かに、必要とされていれば頑張ろうと思えるし、期待に応えようと努力を続けることができるはずだ。私の地元岡山県に戻ることも視野に入れて、自分の将来についてしっかり考えてみようと思う。
- ② 選択肢に入る
- ・地方から大学進学の際に都会の大阪に来て、少し人混みが苦手だと気がついたから。
 - ・最近ではコロナ感染の不安から、都会よりも地方の方が住みやすいと感じているから。
 - ・必要とされている実感を抱くことができる地方就職の魅力を知ったから。

20 解答欄：

① すごく北川さんの会社は様々な仕事をしていて魅力的だと思いました。私はまだ就活のことをほとんど知らず、東京に出たいという人が多く、地方から出ていくひとがそんなにも多いとは知りませんでした。確かに私自身が漠然と想像していた未来に地方で地域住民の人と深く関わる仕事をしていることはなかったなと思います。ただ、今回の北川さんの話を聞いて、私はローカルの仕事が向いているかもしれないと感じ、将来についての視野が広がりました。「価値付け」の話聞いて、このような考え方は地域再生に限らず大事にしていきたいと思いました。今の時代は、個人の自由や思想が尊重するべきだという意識が高い時代であると思うので、自分の好きなように考えて行動してそれが誰かのためになったり、自分が大事にしたいものことに価値を付けるのがこれからの時代に合うようになってくるのではないかと思います。あと、ストーリーが必要であるという話が面白かったです。突然ですが私はアイドルが好きです。ですが、その人のルックスや曲だけに魅力を感じるのではなく、その人たちが売れるまでの経緯や曲への想いを聞くことで、さらに応援したくなったり、曲を買いたくなったりします。この北川さんのストーリーのお話は私がアイドルが好きな話にも近い部分があるのではないかと思います。このようなことを踏まえて、企業側の採用活動が重要というのも良く分かりました。

② Yes.

今回のお話を聞いて、自分が地方就職が向いているかもしれないと思ったのと、もともと東京に行きたい、大企業に就職したいというような気持ちがあまりなかったのもあります。あと勝手に大企業の方が金銭面が良いのかなと思っていたのですが、そんなに差がないと知れたことも良かったです。人と話したり、関わるのが好きで、達成感ややりがいを感じたいということもあります。資格の取得も目指しているので、就職についてはまだまだ考え中ですが、このような理由でその選択肢の中に地方就職が含まれました。

21 解答欄：

① 地方という言葉を知ると、私の母方の祖父母の家を思い出します。祖父母の家は高知県の仁淀川町にあるのですが、スーパーのトラックが移動販売に来てくれるぐらい田舎です。母はそんな場所から大阪に出てきた人です。なので、たまに母が小さい頃に体験した田舎ならではのエピソードを面白く話してくれます。例えば、歩いて1時間弱ある小学校まで行く途中の山道でトイレをしたくなってしまう、友達に見られないようにちょっと脇にそれたら斜面を滑り落ちてしまって学校に遅刻した、という具合です。授業の中で、「足りないを楽しむ」という言葉が出てきたときに、真っ先にこの話をしている母を思い出しました。絶対に不自由なところもあったのだろうけど、母の口から出てくるのは楽しい話ばかりです。大阪に来るまでの18年間を過ごしたストーリーが、母と高知の実家の間にはあるのだと感じました。母のおかげで授業の内容が想像しやすく、とても興味深いものになりました。

② 先述したように、母のおかげで「地方」という言葉にはプラスのイメージを持っているので十分選択肢に入ります。私は今大阪に住んでいて思うのですが、将来は絶対に地方でのんびり余生を謳歌したいです。姉がいるのですが、就活のタイミングで高知で探すのもありではないかと提案したことがあります。しかし姉は嫌だと言いました。「高知は私にとってのオアシスだから、就職という嫌な思い出で埋め尽くされたくない。高知=勤務地というイメージをつけたくない。」と言っていました。なるほどと思いました。私も

姉同様田舎が好きなので、そういう意味では地方就職は考え物かもしれないです。

2 2 解答欄：

① 私はほとんどを都会で暮らしてきているので地元で就職の何が悪いのかと感じていたが、確かに自分が田舎に暮らしていたら都会に出て就職したいと思っただろうなと感じた。しかし、その中でも地元の魅力に注目し、そこで仕事をしようとする考えはすごいものだと感じた。特にいいなと感じたのは、今あるものに感謝。デイスらず愛でる。という部分だった。私たちはsっちの方がよかった。昔の方がよかった。など自分の思い通りにならないことがあったら文句を言いがちであるが、それをせずに足りていないということをイライラするのではなく楽しむという考えがすごいと思った。人材が少ない場所で都会と同じような仕事をしようとしたら、全員が全員真剣に仕事に取り組み、エキスパートになる必要があるが、その仕事に対して自分しかできないのではとそこに自分がいる意味を強く感じる事が出来ると感じるのでそれも一種の仕事の在り方なのかなと思った。雇用の問題からみれば、ローカルは今注目すべき部分なのだと感じた。

② Yes

この講義を聞くまでは、正直なところ No だったが、仕事でも自分がそこにいる意味ができるという点を見れば私も地方就職を考えてみてもいいかなと感じた。私は今アルバイトをしているが、深夜帯に人がほとんどいなかった時期に入ったため今はその時間帯のリーダーのような存在になっている。自分が評価され、あなたでなければならぬと思ってもらえることはすごく自分にとってうれしいことだと感じた。その経験があるので、私は地方就職も視野に入れてみたいと感じた。

2 3 解答欄：①全体を通じての感想として、正直、先生はとても仕事に恵まれているなと思いました。先生が初めに入った職場が、ゲームに関する職場だと聞いて面白そうだなと思いました。確かにずっとゲームをして、ファインプレーをたくさん集めて15秒にするというのは、いつか飽きてしまうだろうし、ずっとゲームをする時間は無意味労働になってしまうんじゃないかと思いましたが、先生は職場をやめ、転職なさいました。転職は、今の日本ではなかなか受け入れられないという感じがしますが、先生はのちに大企業となる職場に就くことが出来たという話を聞き、運が良いなと思い、さらに何か先生に魅力があるから良い職場に就いたのかなとも思いました。その後、その職場をやめて事業を始めましたが、事業を始めるのも資金集めなどで難しいことが多いと思います。それなのにきちんと株式会社を設立して本当に尊敬しました。自分も先生のように自分のやりたいことを最終的にできるような人になりたいです。

②No

地域就職が完全に嫌なわけではないですが、地方就職は本当に最終選択だと思います。先生は授業で地方の就職の魅力についておっしゃってくれました。私はその意見に共感し、納得しましたが、親や親せきのような「大人」はこの授業を見ていないので地方就職を都会での就職よりプラスには捉えないと思います。私はどうしても人目を気にしてしまう性格なので、このようなことをしたら人はどう感じるだろうかと感じて生きています。本当にしたいことがあれば地方就職をしたいと思います。今は具体的に何がしたいと決まっていないので、地方就職はあまり良いと思いませんでした。

2 4 解答欄：

① 地域との関わるということはとても重要だと改めて実感しました。少子高齢化が進んでいく中で、田

舎のほうの地域では、子どもたちや若者が減ってきて、高齢者中心のコミュニティーになっているというところも少なくないと思います。そのような中で、伝統などを受け継いでいくためには地域間での関わり合いというものがとても重要になってくると思います。私自身も住んでいるところは田舎のほうで、畑や漁業も盛んです。しかし、どのようなものがよく取れるや、後継者不足の問題などはあまり知りません。また、どこかに行くとなると都市部に出かけることが多いので、地元の観光地などについてもあまり詳しく知りません。このような若者も少なくないのでは、と感じます。そのような人のためにも地元の魅力を伝えていくという仕事はとても重要だと感じました。また、この町は何もないと否定的な感情から入るのではなくて、価値を見出していくこと、また自分たちの身の回りで価値が伝わっていないのではないかと考えるということはとてもいいことだと感じました。都会のほうではすべてのものがそろっていて、便利で、人もたくさんいます。しかし、まだ魅力が十分に伝わり切れていない地元の町に伸びしろがあるのではないかと思うことが大切なのではないと感じました。現代では、SNSなどで世界中の人とつながることもできますが、自分の住んでいる地域の人々と実際にかかわっていくことも大切だと思います。このような取り組みは全国で行われるべきだと感じました。

② Yes

地域とかかわりを持つことで地元の魅力に気づくことができるし、地域に密接したコミュニティーを作ることができるからです。そのような関係性が成り立っていると、例えば災害などが起きた時に連携を取りやすいし、他の地域からここに住みたいと思って移ってくる人も増えると思います。そうすると、地域に活気がでて、明るくなると思ったからです。

25 解答欄：

1. スライド 15 の再生という言葉への疑問提議が印象的だった。過去の価値観にとらわれずに現在や未来の可能性に目を向ける姿勢が好意的に思えた。再生という言葉の代わりにどんな言葉を入れればいいのか気になった。
2. Yes…都市部地方関わらずに面白く成長できる企業に就職したいので、最初から都市部に絞ったりなどは可能性を失いたくないから。

26 解答欄：

- ① 今就活生の姉がいて、就活がどれほど大変なのかということを見ているので、就活生を支援する活動がとても素敵な活動だと思った。また、就活生を支援しながら田舎の魅力を伝えていて、一石二鳥の活動だと感じた。インターンシップや他のチラシは魅力を感じるチラシで、コロナ禍でなかったら、インターンシップに是非参加したいと思った。「地域再生」という言葉に疑問を持ったことは無かったが、今回の講義を受けて確かに地域再生という言葉に違和感があるなと思った。「今」と「未来」を見つめて、方向を決めるという言葉に感銘を受けた。偏見を持ったまま地域にあるものは衰退していると捉えないで、地域に今あるものを見つめて、それに価値付けしようという考えに改める機会となった。今あるものに価値付けするというのもただの過程ではなく、地域再生する際に大切なポイントである。価値や面白さを見出していくとき、地方の方が可能性があり面白さがある。その面白さを見つけていきたいと思った。私自身スキルを磨くということに目的を持っており、そのスキルは将来きっと役に立つだろうというような気持ちを持っていたが、地域を再生させる際そのスキルが目的ではなく、手段であり続けられるということにとっても魅力を感じた。成果を出さなければならないので「結局実力が付いちゃう」という表現が面白く感じたし、自分自身にとっては良い環境だなと思

った。地方の企業の魅力を知れる機会が重要だなと思った。

② No

地元が地方であれば地域就職は選択肢に入ったかもしれないが、私の地元は大阪で、家族や祖父母の全員が大阪に住んでいることもあり、地域へ就職するという選択肢はあまり考えていない。家族や祖父母に何かあったときにすぐに駆け付けれる場所にいたいという気持ちがあるので地域へ就職しようとは思っていない。また、育ってきた地元で就職したいという気持ちも大きい。

27 解答欄：

- ① 今回の講義を通して、“働く”ということが少し楽しみになりました。私は現在一回生で、ついこの間まで高校生だったのに、大学受験が終わった瞬間いろいろな大人から就職の話をされるようになりました。このことから、正直、私にとって就職というものは、未知なるもので、恐怖や不安といった負の感情が湧き出てくるものでした。また、世の中の価値観的にも、“大企業で勤めたり、都会の方で勤めたりすることが成功だ”といった考えがあり、すごく肩身が狭いような心持ちでした。自分の本当にしたいことがわからないまま三年後に都会の方で就職活動をして、自分の納得のいく人生にはならないのではないかとといった不安もありました。しかし、今回の講義を受けて、仕事することは、自分の人生を豊かにするためにやることだということを感じました。特に、「ローカルがなぜ面白いのか」といったテーマの中で、“「自分じゃないと」の意味づけ”、“自らの生かし場所がたくさんある”という言葉を見て、社会の中で自分というものを生かすことで、より良い社会を作るといったことが大切だと感じました。これを受けて、何のために働かなければならないのだろうかという疑問から、自分を豊かにするために働こうという意思を持てるようになりました。これからの未来が楽しみです。ありがとうございました。
- ② Yes です。今回の講義を受けて、私は、自分である必要性を働く上で大事にしたいと感じました。それを感じられるのは大きな会社よりも地方の会社なので、地方就職も選択肢に入れようと思います。

28 解答欄：

私は和歌山出身で現在も和歌山に住んでいます。もちろん和歌山も滋賀同様田舎です。だからこそ今回の講義は身近なことの様に感じられ、いろいろなことを考えました。確かに田舎は若者にとって良いイメージはないのかもしれませんが。実際、同じ高校の友達の中でも和歌山を出たい、都会に行きたいと言っていた子が多かったように思います。しかし、私は和歌山に残りたいという気持ちの方が大きかったです。都会はキラキラしていて、楽しい場所もたくさんあって素敵なおとこであることは間違いないです。でもその場所に住んでしまうとそれがいつしか当たり前になっていくはず。それよりも私はたまに旅行で訪れて楽しいと思いたいと昔から考えていました。私の中で都会は住む場所というよりも楽しむ場所という印象が強かったです。またそれ以外にも、田舎は人と人の関わり合いがかなり濃いです。それは自分が子育てする世代になった時、住む地域としてとても良い点だと思いました。だから私は地方就職に対して大いに賛成です。和歌山県からの給付型奨学金で、大学卒業後和歌山で就職することが条件に組み込まれた奨学金を申し込んでいるので私は必ず地方就職しますが、それがなかったとしても和歌山に戻り就職をしていたと思います。自分が育った町への恩返しをしたいという気持ちと、将来自分の子どもも自分が育った環境と同じようにあたたかいところですくすく育ててほしいという気持ちがとても強いです。

29 解答欄：

- ① この講義を聞いて、考え方を考えるだけで物の見方が変わるということを知りました。価値がないのではなく、価値が伝わってないことをスタート地点に置くという言葉で、その地域には、すでに価値があることを示すこととなります。そうすることで、今まで価値のないものだと思っていたものが実は価値のあるものであるということに気づくことができます。そして、自分の住んでいる地域について自信が持てるようになると考えます。このように、価値があるという考え方にするだけで、実際に価値があるものに見えるということに驚きました。また、この考え方は日常生活でも役に立つのではないのかと考えました。例えば、勉強をすることです。毎日勉強をしていると、めんどくさいものであると思います。しかし、世界には勉強したくてもできない人がたくさんいるという考え方に考えるだけで、勉強をすることは当たり前のことではなく、有難いものであると思うことができます。このように、考え方を考えるだけで物の見方が変わるということは日常生活でも起きることだということがわかりました。
- ② 私は地方就職は選択肢に入ります。なぜなら、少しの間栃木県に住んでいて、地方の良さを感じたからです。それは、新鮮な野菜を食べることができることです。仲の良い人からキュウリなどをもらい、とてもおいしかったことを覚えています。また、人口が少ないため、人と密接に関わることができることです。年が離れている人とも話す機会が多くありました。

30 解答欄：①今までの地域再生概論では「あるもの、あることを使って地域再生に役立てる」という講義が多かった。それらは明確に何をすることが決まっており、そのうえで考えることが多かった。しかし今回の授業は別で、「地域再生とは」や、地域再生の方法そのものについて考えさせられた。今までの講義より抽象的な印象を受けたが、その分考える余地が多く面白いものだった。地域の欠点をただ補う方向で考えるのではなく、それだからよいという部分を実際に経験している人から聞くことで、説得力があった。この講義の題名に「再生」とあるが、昔の良かったものにすぎたのではなく今から未来につなげるために行動するという考えが講義の中にあっただ。実際今と昔では使えるリソースも異なれば顧客の求めるものも異なる。「再生」という言葉にそぐわないかもしれないが、今と未来のみを考えて発展させていくという考えは素晴らしいと思い、大切にすべき考えだと感じた。

②No 自分はITの方面に関わりたいと考えており、ITの世界では地方よりも都会のほうが栄えているだろうというイメージがあるから。

31 解答欄：①再生という言葉を使うと昔の良さを取り戻す=今は良くないという意味になってしまうということに納得した。テレビで田舎を再生、再興する活動をする人たちを特集していることが多々あるが、それはやっぱり地方に対して廃れて何も無いというイメージがあるのだろうと感じた。

②私は地方都市であれば就職はありだと思いが山にある集落などで働くことはできないと思う。地方都市での就職は講義でもあったように世間の人たちが思うほど低収入であるとか最新の情報が手に入らないとかそんなことはインターネットが普及した現代ではないのでその不安はないが、かなりの田舎だとそこに住む人々の集団意識によって受け入れられにくいことが多いし、実際田舎のそういった感覚に苦しんでいる人が周りにいたため、そこで仕事をして生きていくのは難しいと思う。

32 解答欄：①今回の地域再生概論の講義では地域に住み、地域で働く人を増やすために行われている取

り組みや地域の可能性について学ぶことができ、少し地域での就職に興味湧きました。また、株式会社
いろあわせの人事の地域復興と一人一人の個性をみることは近しいものだという考え方や優秀さの競争だ
けでなく、その人の個性を生かした社会を想像したいという目標は非常に面白いと思ったし、今後の社会
にはそのような視点も必要なのではないかと思いました。地域再生という言葉に対して懐疑的で、今と未
来を見据えるだけで再生ではないという考え方には、地域の未来に関して、ただ昔に戻せばいいわけでは
ないのだなと思ったし、色々と考えさせられるものがあった。次の講義が非常に楽しみです。

②地域就職は選択肢に入るかという質問ですが、正直にいうと私は入りません。なぜなら都市部でしか楽
しめない娯楽があり、私はそれらが非常に好きだからです。(ライブや映画、テーマパーク、大規模なイベ
ントなど)単純な理由ですが、将来も都市部に住み続けたいと思っているため、都市部で就職したいと考
えています。

3 3 解答欄：

① 競争するのではなく、個人の色を尊重するという会社の方針が非常に魅力的だと感じました。小さい
頃からさまざまな場面で競争は付き物でしたが、人それぞれ得意とすることは違うのと思って、私
は順位をつけたりつけられることがすごく苦手でした。就活が今から不安ですが、競争がすべてでは
ないということを大切にしている企業があると知ることができ、少し安心しました。そして、たしか
に今と昔では価値観も変わっていて、昔のものが必ずしも良いものとは限らず、改めて考えると地域
再生という言葉には少し違和感があるなど感じます。

② No

地方での生活は、自然豊かな環境の中で暮らせたり、通勤ラッシュを避けられるなどさまざまな良い
点があると思います。ですがどうしても交通が不便であったり、私は同世代の知人などとすぐに会え
る環境を求めてしまうため、自分には地方暮らしは向いていないのではないかと考えました。

3 4 解答欄：

① 田舎だからダメなのではなく、その地域なりの魅力があり、その魅力を自分が見つけようとしてない
だけだという言葉が印象に残った。価値がないのではなく、価値が伝わってないことをスタート地点
におくことが大切だと分かった。マーケティングに興味があるので、地域の魅せ方という点で非常に
勉強になった。例えば、人に伝えやすくするためには、事実のみを伝えるのではなく、自分の感情や、
事実に関するストーリーを乗せると効果的であるということ学んだ。地方で働くことの利点は、「関
わりシロ」が大きく、一人一人がやりがいや成長を感じることができることにあることが分かった。
スキルは得るためのものではなく、使うためのものであるということはこれからの就活で忘れずにい
たいと思った。自分にとって、本当に大切にしたいことは何であるのか、日ごろから考えていくこ
とで、大きな選択をするときに自分がハッピーになれる選択をできるのかなと思った。

② yes

自分自身、人とのかかわりや、やりがいを重視したいと思っており、その点においては地方も充実し
ていることがわかったから。

3 5 解答欄：

1 私は愛媛から大阪に出てきたので、就職は愛媛県ではせずに大阪でしようと思っている。自分の中で

愛媛は田舎で何も無いところという意識が強いからである。講義中にもあった地域の魅力がうまく若者に伝わっておらず、偏見やイメージ絵見られていることが多いということは事実だと思う。なぜなら、そもそも地元の大抵の大人が昔は良かったが、今は勢いがなくなってしまったと考えている。さらに私の愛媛から出て進学や就職をした友人たちになぜ愛媛から出たのかを聞いた時、何の魅力もない愛媛県から出て都会で自分の興味があることを探したいと答える人が多かったからだ。しかし今回の講義を視聴してもう一度地元の良さを考え直してみようと思った。愛媛県から離れたことで良さがみえてくるのではないかな。講義中にもあった昔のことは無視して、今と未来のみを考えることは地元を離れて都会に出てきた若者を地元へ戻りやすくさせる考え方だと思う。私のような都会に憧れて田舎から出てきた若者は自分のしたいことを探していることが多いので、古い考え方にとらわれないことが今の若者にはあっていると思う。今回の講義を受けて地方就職に少し興味が湧いてきたので次回の講義も楽しみにしている。

2no

今回の授業を受けて自分の地元のことを考え直そうと思う。しかし自分の地元は何もなく、都会にはなんでもあるという考え方が自分中に根強くあるので、今の年齢では地方に就職しようとは思わない。もう少し年齢を重ねて色々なことを考えることができるようになったら、このようなコンプレックスが消えて、地方で就職してみようという気持ちが出てくるかもしれない。

36 解答欄：①まず、いろあわせという会社名の由来に感銘を受けました。僕は人と競争するのが得意ではなく、人とは協力したいと思っているので、様々な個性を持っている人たちをうまく合わせていくといった会社の思想に共感することができました。また、北川さんの考え方が全体的にじっくり来て、とても参考になりました。貴重な体験をありがとうございました。

②部分的に Yes

地方就職のメリットも十分理解でき、また自分もゆったりと暮らすのが好きなので、地方に就職したいと思うのですが、ほとんどゼロで何も無い場所を盛り上げていくエネルギーはないので、比較的大都市に近い場所での地域就職を望みます。

37 解答欄：

① 株式会社いろあわせは「就職で大切なのは、一人一人の色を見て、その人に合った場所を見つけることである」という考えを元に、地域のひと、もの、まちの魅力を再発見し、それを若者に伝えようという取り組みをされていた。

地域再生の「再生」とは、昔は良かったのに今は死んでいて、昔に戻ろうというニュアンスを感じるが、必要なのはその視点ではなく、今既にあるものを自分たちに良いように価値づけることだという。

「地方は伸びしろより、関わりしろが大きい」という言葉が特に印象的に心に残った。

企業としての成長が難しかったとしても、そこに携わることで、自分の役割を意識し、居場所を見つけるというのは、給料のためだけに働く労働とは質が違っていると感じた。

地方就職は、課題が山積みなのに人材が少ない、自分じゃないといけない理由があり、成果に対してストイックになれるという点があると知り、その魅力は奥深いと思った。

② 今のところ地方就職は積極的には考えていないため、選択肢には入らない。

その理由の一つ目は、周りの大多数が大きな都市に集まっている企業に就職するだろうと思うから

だ。二つ目は、地方の企業は閉鎖的で風通しが良くないようなイメージがあるからだ。

私は講義を受ける前、この思い込みを疑いもしなかったが、途中で「地方に居たら置いて行かれる感じがする」という根拠のない焦りに気が付いた。

それが本当に焦るべきことなのかは今は分からないが、数年後就活をするときには、あまり執着し過ぎないようにしようと思った。

また、地方の企業は閉鎖的で風通しが良くないというのも勝手に作り上げたイメージだと気が付いた。北川さんが仰るように、地方就職を嫌がるほど、その中身について知らないということに気が付いた。

今のところ気持ちは大きくは変わらないが、思い込みはやめて視野を広く、「周りと同じ」ではなく「私にあう」を第一優先にしていきたいと感じた。

38 解答欄：

- ① 地域で働くことにとっても魅力を感じました。地方では働き手が足りないので、技術が必要とされるのではなく人材が必要だということを実感させられました。地方で働くことと必然的に力がつく理由もわかりましたし、やりがいがある理由もわかりました。確かに地方の魅力が若者に浸透していないと思うときはありますが、今日の講義を見て地方の魅力を再認識しました。
- ② 地方就職を選択肢に入れています。私は地元が高知県なのですが、大学を卒業したら高知で働くつもりです。理由は、高校までずっと高知県で育ったこともあり高知県にとっても愛着があります。とても穏やかな人が多く、自然に触れ合いながら暮らせます。また、家族が高知にいたり、大手企業に就職しようとそこまで思っていない事も理由の一つです。

39 解答欄：

- ① 地域再生と聞くと何もないところからその地域の魅力を生み出すという難しいことだと思っていたが、今あるものに価値付けすることだと聞きとても取り組みやすいことだと感じた。しかし、今見出されていない価値が本当に地域にあり、それらが本当に見出される可能性があるのか少し疑問に思う。人が居れば本当に地域が再生されるのか、もちろん取り組んでみなければ結果が出るかは分からないが投資をしてその地域を再生できるほど利益が生まれるのか少し疑問に思う。私は地域活性化の中でも森林や里山の保全など環境保全に興味がある。地域復興を目指すことも大切だと思うが、まずは地域保全からできることをしていくことが重要なのではないかと考えた。
- ② YES 地方にも人材の需要があると思うし、その中でも自分自身が役に立つ仕事があると思うので、地域就職と都市就職にあまり差を感じない。最近では技術の発達によって地域でも都市とあまり変わらない仕事ができるので地方での就職も当たり前のように候補となる。私は、大阪で生まれたが私の育った地域は住宅街ばかりの閑静な地域だったので、都会で仕事をするよりも静かな地方で仕事をするほうがQOLが上がり、より仕事に集中できると思う。また、地域活性化などに興味があるのでそれらに携わる仕事をしたい。

40 解答欄：①今回の北川さんの授業を聞いて地元を大切にしたいという思いがより一層強まりましたし、より深く地元のいいところを探していきたいと思いました。北川さんの「いろあわせ」のプロジェクトの全体像は、ひとあわせ、ものあわせ、まちあわせの三つの柱からなっており、様々な観点で地元を見ていってほしいという印象を受けました。

また、「足りていないことを楽しむ」という考えはとてもポジティブな考えであり、一見マイナスに思えることも考え方によってプラスになるのかなと思いました。

②私は、地方就職は選択肢に入ります。(Yes)

その理由としては、元々私は地元が大好きであるというのと、この講義を聴いてより地元の魅力を発掘し、地元へ貢献したいと思ったからです。私が住んでいる所は大阪の中でも田舎のほうであってとにかく自然が多く、とても住みやすいのですが、就職するとなるとやはり都会のほうが良さそうだなと今までは思っていました。しかし今回の北川さんの授業を受けて、地元にもいい会社があるかもしれない、住民だからこそ役に立てる仕事があるかもしれない、と思うようになりました。そして自分が実際地元で働くようになった場合は、いろいろな物事に「価値」を見いだせるような人間になっていきたいと思いました。

4 1 解答欄：

① 私は、都会よりも田舎や地方が好きなので、今回の講義は非常に興味を持つことができるものであった。確かに、都市部はあらゆる活動が盛んで情報量も多いため、就職などの活動に関しては、都市部のほうが有利な印象が強い。おそらくそれは間違いではないだろうが、地方でも様々な魅力、価値がある。若者に限らず、多くの人はそれらに気づけていないという側面が非常に大きいと感じている。その点で、この講義でも述べられていたように、情報発信を積極的に行うというのは非常に重要なことだと考えている。多くの人は、自身の地元に対してある程度の愛着を持っているはずで、その地元愛から、地元で就職をしたいという人も多くいると思う。そのような人に向けて有益な情報をどんどん発信していくと、その人が就職し、さらにその土地の魅力を再発見し、地域が活性化することにもつながるだろう。

また、「昔は良かった」という考え方ではなく、今あるものに価値を見出し、前向きに未来を見据えてこれからどのように進んでゆくのか考えるのは、私も非常に大切だと感じた。現在の状況に感謝し、今どのようにすればよいのか真剣に考えて前に進んでゆくのはあらゆる場面で必要なことである。

今回この講義を受け、地方にあるものに価値を見出し、さらにその土地で自分自身を成長させてゆくことの魅力を強く感じた。

② 私はまだ就職についてほとんど考えていなかったのだから、わからないところもあるが、自分に合った職があれば地方就職も選択肢に十分入ると考えている。私も自分の住んでいる地域に愛着を持っている。その地元愛を感じながら、就くことができる職があれば喜ばしいことである。地元の人との関わりというのはまだ多くはないので、就いた職を通して人と関わり、地元の魅力を再発見できると非常に良いと考えている。

4 2 解答欄：

① 今回の授業を受けて自分がいかに就職に関して偏った考えを抱き、自分が本当にしたいことを押し殺しているかを自覚できました。私は本当は芸術に興味がありまだ有名ではないが、いい作品を作るアーティストをより多くの人に知ってもらえるような仕事をしたいと思っていました。しかし、良い意味でも悪い意味でも私は中学校、高校で大手企業のビジネスパーソンと関わる機会が多く無意識に自分も大企業に勤めてバリバリ働いてかなければ裕福な暮らしができないと思うようになっていました。ただ今回の講義であったローカルの面白みを聞いて、仕事において大事なことはお金ではなく、自分がその仕事にどれだけの思いがあるかというモチベーションでありそれにローカルかそうでないかは全く関係ないと分かりました。今後私は自分のやりたいことを実現するにはどのようなスキルが必要で

何をしないといけないか見つめなおしたいと思いました。今この講義を聞いて本当に良かったと思います。ありがとうございます。

② 「Yes」

理由：自分に必要なものがある場所あるいはやりたいことがある場所を選択すべきと考えるからです。

4 3 解答欄：

① 全体を通して共感することが多く、

私の所属する現代システム科学域環境システム学類も「何をしているところ？」とよく聞かれるところです。何か一つだけを学ぶことももちろん重要だと思います。しかし、色んなことを学ぶことには視野が広がり一つの物事に対して多くの視点から考えることができるという別の魅力があると思っています。この点でも講義の内容にはとても共感しました。

また、スキルが目的ではなく手段であり続けられる、ということもとても刺さりました。私は北川さんがおっしゃっていた通りのことを言っていました。私にはパソコンを使いこなしたい、英語が話せるようになりたい、中国語を話せるようになりたい、などできるようになりたいことがたくさんありました。どれも最初は目標があってその「手段」でした。しかし、いつのまにか目標を置いてしまいできるようになることが目的になってしまっていました。その結果、頑張ろうという気持ちが薄くなってきてどれも頑張ることができていません。もう一度スキルを身につけることを「手段」にして初心に戻ろうと強く思いました。

② YES です。むしろかなり入っています。

地域には人と人とのつながりがあるというイメージを持っています。たくさんの人と関わりながらその地域の役に立つお仕事をできれば、心が豊かになると思うからです。

たとえ都会で働くよりお金が稼げないとしても、地方や地元でその地域のために働きたいと考えていました。ですが、講義を聴いて地方でもしっかりお金が稼げると知りますます魅力的に感じました。

4 4 解答欄：

① 地方に就職することの面白さや、利点を知ることができた。私は就職は都会でないといけないという考えを持っていた。都会でないと良い給料がもらえないや、都会の方がかっこいい等と考えていた。しかし、地方の方が私にとって居心地がよく、やりがいを感じることができるなら、地方就職も良いと感じた。

② Yes

講義を聞くまでは就職で地方に行くことはそんなに乗り気ではなかったし、考えていなかった。しかし地方に就職することで、自分が必要とされたり、都会では身につけることができないスキルを習得できることを知り、地方就職も選択肢に入れて就職のことを考えていこうと思った。

4 5 解答欄：

① 株式会社いろあわせさんの話を聞き、人と人の可能性や魅力、価値観などを掛け合わせ、再発見してより良い価値を創っていかうとしているのが分かりました。特に自分と相手の両方を尊重し、競争するのではなく協力する事が大切だと思いました。私達若者の多くは地域よりも都会のキラキラとした所に惹かれて地域に目を向ける事が少ないと思います。だからこそ、地域の魅力を発見するために

まずは企業などが積極的に発信していく事が必要であり、私達はその情報を知ってまた広める事が効果的であると思いました。いろあわせさんでは滋賀の会社・人・モノ・まちの魅力を再発見してもらうために、それぞれの魅力を発信する事で滋賀が様々な所で選択肢に入ってくると思いました。そして、地域再生の大切なポイントとして過去に戻ろうとするのではなく、今あるものをより良いように価値づけすることに意味があると思いました。価値がないと思わずに、価値に気づいていないからどうしたら相手に伝わるかを考えるのが大切だと思いました。地域には都会にはない強い繋がりがあり、ストーリーが生まれ自分で何とかしようとさせる力があります。その中で自分を活かす場所が見つかり、実力もついてくるのだと分かりました。このように地域には良いところが沢山あるので企業の発信力が向上すれば、雇用が増え地域が盛り上がっていくと思いました。

- ② 私は地方就職は選択肢に入ると思います。それにはいくつかの理由があります。一つ目は自然豊かな環境で過ごせるという事です。地方は山や海など自然に囲まれているところが多いです。田舎は土地が安いのに余っている土地も充実しているので、家の近くに広い公園や緑地帯があるなど緑豊かな環境に恵まれています。場所によっては自然豊かな世界遺産や名所があるところもあり、自然だけでなく文化にも触れながら暮らすことができます。空気や水が美味しいところでゆっくりと健康的に暮らせるのは地方ならではの魅力だと思います。二つ目は地域の活性化に貢献できるということです。地域のブランド力を上げるために産学官連携にも注目が集まっており、一般企業で働きながら学校や公共事業に関わる機会が増えてきているので、地方の企業で働くことは地域の発展にも繋がると思います。また、自分が地域の発展に貢献しているというやりがいを仕事を通して感じることができると思います。三つ目は通勤ラッシュが少ないという事です。満員電車での通勤が毎日続くととなると、通勤ラッシュによるストレスは相当なものになってしまうと思います。それに対して地方都市の場合は通勤ラッシュの時間帯で電車が少し混むことはありますが、都会程混雑することはありません。また、地方企業の中には自動車通勤が許可されているところも多数あり、自家用車で空いた道路を快適に通勤できると思います。その他にも良い所はあると思いますので、地方就職には魅力があると思います。

4 6 解答欄：

- ① 今回の講義を聞いて、確かに都会の大きな企業に就職する方がいいというイメージが自分にもあると感じた。しかし、地方で就職した場合、実際に誰に提供するものなのかを知らずに仕事をする事ができて頑張れる上に、直接喜んでいる姿を見ることができたり、お礼を言ってもらえる機会が多かったりすれば、大きな企業の一員として働くよりもやりがいが増えると思った。また、北川さんがやっておられるような幅広い仕事は毎回新鮮だろうし、新しく発見することも多くあって楽しそうだと感じた。まだ就職についてあまり考えたことがなく、自分が何をしたいのかもわかっていないけれど、地方の企業もしっかりと調べて自分に合った仕事に就きたいと思う。
- ② 地方就職は選択肢に入る。理由は、仕事をする上で自分でいろいろと試す機会があればその都度成長できると思われることと、その成長を実感することができれば充実した生活を送れることである。

4 7 解答欄：

- ① 私はこの講義を通して特に印象に残っていることは2つあります。
まず、地域再生の概念についてです。私は今まで地域再生について、昔栄えていた地域をもう一度活

発にするという考え方を持っていました。しかし、この講義を受けて、地域再生とは再生をするのではなく、今地域にある伝わっていない価値を伝えられるように変えていくことであることを学びました。そして、それぞれの地域の価値が伝えられるように工夫していくことの大切さを感じました。つぎに、いろあわせがしている街の魅力の再発見についてです。私は企業は人材やマーケティングにこだわっているイメージがとても強かったです。地域の活性化に貢献できるよう取り組んでいる企業があることを知り、驚いたと同時にとても好感を持ちました。また、大都市一極集中になっている日本で地域を盛り上げられるような企業が増えると様々な魅力を持った地域がそれぞれの形で活性化していくことができるようになっていくと考え、そのような地方の企業に魅力を感じる人が増えていけば良いと感じました。

② Yes

私は地方就職も選択肢に入っています。私はまだ将来の夢がはっきり決まっておらず、大学で様々なことを経験して考えていきたいと思っていて、そのため幅広い選択肢を持っています。今回の授業で地方では自分を活かす場所がたくさんあることを知り、自分で考えて行動することが好きな私に向いているかもしれないと感じました。世間一般の意見ではなく、幅広い視野をもって自分が就職する場所を探していくことが大切だと感じました。

48 解答欄：

- ① 授業全体を通して、私は特に「再生」の意味の捉え方の話が一番印象に残った。その話を聞いて、地域再生について考えるときにその地域の衰退しているところや失ってしまったものに目を向けがちである自分に気づかされた。今あるものに自分でどうやって意味を見出し、どうやって価値を生み出していかを考えることで、自分が考えていた以上に地域を活性化させられるのではないかと思った。また、価値づけにおいて「ストーリー」がポイントだと知ることが出来てよかった。ここ何回かの地域再生の授業を受けて、地域再生の取り組みについて人々の興味を引き付ける工夫をする重要性を感じた。ストーリーを設定することにより、多くの人が興味を持ち、その取り組みに参加したり、支援したりすることに繋がるのではないかなと思う。ローカルの企業についてのお話を聞いたとき、ローカルで働くことのメリットについて初めて知り、やはり企業の情報発信は重要だと思った。そうした企業の情報発信が増え、雇用が増えれば、地域の活性化にもつながるため、どんどんしていくべきだと感じた。
- ② NO 理由：確かに地域で働くメリットにひかれたが、自分のつきたい仕事の会社が都心に集まっているのと、長期的に働くことを考慮して、都会のほうが交通機関も整っており、家事や育児をしながらでも働きやすいと考えるため。

49 解答欄：

大変ためになる講義だった。いろあわせの事業は素晴らしいと思ったし、悩んでる人は多いと思う。地方に就職するメリットを言語化してくれて本当に納得できた。私は将来地元で就職したいと考えている。理由はシンプルに地元で貢献したいと思ったからである。だから

からこそ「都会にいかないとお金を稼げない」という私が不安に思っていたことを解説してくれて本当にありがたかった。

5 0 解答欄：

大学1年生のうちでは考える必要のないことだと思っていた。だが、2年ほど先のことでもしっかりと考えてあやふやにならないように前もって準備しておくことに損はなく、むしろ様々な体験と考えを交わらせることができるという点でプラスになると思った。私たちが生きている社会では多くの固定観念が存在しているが、それをまた違った角度から見つめなおして再構築していく技術が求められるのではないかと感じた。またそれは斜に構えるのではなく、ポジティブに考えることで意欲の向上につながることも思った。

今回の講義を受けて、多面的な考えを持ちながら物事に取り組む姿勢を正そうと思った。

「地方就職は選択肢に入るか？」→Yes

自分が生きている地域についてはほとんど知っていると思ってしまっているの、他の地域の魅力が自分にとってはとても新鮮で面白そうと感じるから。

5 1 解答欄：

- ① とても明るくて、はきはきと聞き取りやすい声で話していらっしたので、わかりやすく説得力のある講義だったと思いました。実際にたくさんの方々の就活に携わってきたということなので、自分の就活の際にも相談してみようかなという気になりました。一番印象に残っていることは、社会に出てから短いスパンで何回も転職なさっていたことです。私は転職は最後の手段であり、なかなかしてはいけないものだと思っていたので、今までの価値観をアップデートすることができて良かったと思います。
- ② Yes もちろん給料は東京に出て働くよりも安くはなると思います。けれども物価や家賃を考慮すれば大差はないでしょうし、地方で働くほうがより幸せを感じるが増えると思います。都会でありがちな朝の通勤ラッシュに巻き込まれないこと、喧騒から離れて地方でやりがいを実感しながら余裕のある生活を送れること。当然、地方と一言で言ってもどれぐらい発展しているかは様々ですが、私は十分に視野に入れておきたいです。

5 2 解答欄：

① 地方で働くことには、自分を活かせることや地方ならではの人のつながりなど様々な魅力があるのだと思った。私は佐賀県出身だが、周りの友人にも、佐賀のことは好きだが、佐賀だと雇用が少なくて就職が難しいかもしれないと言っている人は結構いる。十分な雇用と発信活動は、地域にとどまる若者を増やすためには重要なことだと感じた。

② 私は、地方就職は選択肢に入ると思う。元々は、都会の大学に進学し、そのままそこで就職したいと考えていた。しかし実際に都会に来てみると、とても便利で生活しやすいが、生まれ育った地元の居心地のよさや温かさを改めて感じた。確かに地元だと雇用が少ないと思うので、まだはっきりと決めたわけではないが、地元での就職も視野に入れて自分の将来を考えていきたいと思うようになった。

5 3 解答欄：

① 私は今まで自分を成長させ、ある程度の収入を得て安定して暮らすためには都会に出なければならぬと思込んでいました。しかし今回の授業を受け、必ずしもその必要はないということを知りました。これまで、そもそも私は地元にもどのような企業があるのかさえあまり知りませんでした。そのため地域の産業に興味を湧かす、自動的に都会の方へと目が向いていたのだと感じました。私は時々テレビなどで地方都市の若者の流出についての話を耳にしますが、その原因は私のように地元の企業にあまり興味を持たず、それについてあまり知らないという人が多いということにあるのではないかと思いました。そのため、授業でおっしゃっていたように、企業の情報発信力が今重要になっているのだと感じました。

② Yes

Yes とは書いていますがやはりできれば都心部の企業に就職したいというのが本音です。今の時点で私はそれ程就職活動について深く考えていなかったため、企業について詳しく分かっていないのが現状です。なのでとりあえず都会の大企業に就職という考えがあります。ただ、今後の自分の状況によって、地方に就職することも一つの選択肢だと考えています。

5 4 解答欄：

① 今回の講義を受けて、地域で就職する若者を増やすには企業側や地域からの情報発信が重要であるということが分かりました。多くの若者は自分の住んでる地域の魅力に気づかないまま、なんとなくで都会に就職しに行く地域の中でまだその価値や魅力に気づいていないものや、既にあるものに見方を変えることで新しい価値を付加するなど常に可能性を探っていかねばいけないと感じました。

② YES

私は現在、獣医学類に所属していますが獣医になろうと思ったのは馬が好きだったからなので将来はサラブレッドに携われるような仕事に就きたいと考えています。競馬に関わる仕事となると一番はJRAに入って競走馬のトレーニングセンターや各地の競馬場で働くことが考えられます。そのほかの場合だと、生産牧場や育成牧場で働くことが多いと思いますが、生産牧場の多くは北海道にあり、それ以外だと青森や九州が多いので基本的には地元で働くということにはならないと思います。育成牧場に関しては、滋賀の栗東にトレーニングセンターがありその周辺にはいくつかの育成牧場があります。なので、地元というわけではありませんが、関西圏での就職は選択肢に入ります。例えば、私は昔、兵庫県明石市に住んでいましたが、その近くにある淡路島にも競走馬の育成施設があったりします。こう言った理由から地方での就職は選択肢に入ります。

5 5 解答欄：

① 今回の講義で感じたこと、それは、地域の魅力をわかっている人は必ず一定数いるわけで、その人達の中にはもうすでに実際に足を運び、住み、働いている人もいます。だから、地域の魅力をアピールする対象がとても重要であるということだ。すでに魅力をわかっている人に魅力を伝えるほど簡単なことはなく、魅力を知らない人に伝えることはとても難しい。価値付けのポイントでもおっしゃっていたが、誰に何を提供するかはとても大切だと感じた。一方で相手への価値観の押し付けでは絶対にダメだとも感じた。知ろうとしてくれている人の聞く気がなくなってしまうからだ。そういった点では、今回の講義は都会に進む人を悪く言うことなく、地域の魅力に教えてくださり、魅力を素直に受け入れやすかった（押し付けられると反骨精神が湧いてしまう）。私は都会で就職したいと言う

よりも地域で就職する気が今まで無かった。理由は講義の中に出てきた典型的な都会で就職する人と同じだ。地域再生概論で地域を再生すると言うのは都会目線（都会が手を差し伸べてあげるという上から目線）での話であると心の中の隅っこで感じていたので実際に地域に住み、地域で就職することで受けられる恩恵を、自らが受けながら地域を活性化させていくという考えが非常に面白いと思った。また、自分の将来に対する考え方の選択肢を増やすことができた。今回は貴重なお話をいただきありがとうございます。

② 地域就職は選択肢に入るか → No

理由：そもそも地域で就職する気がなく、自分の就職したい業種の企業が地元地域にあるかどうかさえも分かっていないから。つまり選択肢の中に入っていなかった。この機会に地元地域企業の情報発信に注目し、その情報を得て、自分の就職先選びの選択肢を増やしたい。

5 6 解答欄：

①全体を通じて、ほっこりとした力まない姿勢や価値観を大切にしている印象を受けた。また、地域をより活発化するために探求心をもって取り組んでいることも感じ取れた。ここで、本講義において地域の再生の前提として、元々「死んでいること」があると指摘されていた。この事実は自分自身なかなか気づけなかった部分なので、言葉の表現について改めて考え直すことが出来る機会になった。そういう点において、「今あるものを、自分たちに良いように価値づけをするだけ」というものはじっくり考えるように考えられる。そして、価値づけにおいて、自分が気づけていない価値を他の人から教えてもらうことも重要に感じた。そうすることで、自分の考えも豊かになることが考えられて一石二鳥であるように思われる。

ローカルが面白い理由について、地方では人との繋がりが深いのでやりがいがあるということは、直に感謝の意が感じられやすいという事だと考えられた。人々の喜ぶ顔が直に見られることほど嬉しいことはないと思われる。また、指摘していたように、地域の人との距離がとても近いのでさばれないのは大きな利点であるように感じられる。特に自分に対して甘い人などは、その姿勢を見直すことができ在り方について見直す機会になることが挙げられる。こういう点から、ローカルで活躍することは自分が想像していたよりも、成長して人生を豊かにできる機会が多いと考えられた。そのことを踏まえると、想像以上に自分にとっても、地域の人々にとっても利点があることに気づけた。

② 「地方就職は選択肢に入るか？」 → Yes

理由：上記で考えていると答えたが、地元である出身地（大阪）やその隣県での地方就職である。これは、出来れば地元で働きたいという思いがあるからである。そして地元の近くの地域であれば、家族や親せき、友人などの知り合いに何かあったときにすぐに行くことが可能であるからである。逆に、地元から遠い地域に就職して住むとなかなか簡単に素早く変えることが出来ない。もちろん遠くの地域にも良いところがたくさんあり、そこの方が人手を欲しているかもしれない。しかし、今の自分にとっては働く場所が一番の条件であり、譲れないのである。言い換えれば、地元でホワイトな職業に就くことが出来るといいなど、現段階では思っている。そして、地方であれば都会圏では当たり前である通勤の満員電車もないことが挙げられるので、環境が良いと思われる。以上のことから、前提として地元であれば、地方での就職も考えている。

5 7 解答欄：

① 今あるものを愛でる、という考えが特に印象的であった。いわゆる古き良き時代を懐古してそれにあ

やかった取り組み、それを取り戻すような試みをするのではなく、今の時代を生きている我々にあった活動に目を向けることの重要性について認識でき、また滋賀出身である私にとっても、私の地元で、自分にもできることがないか、歴史や伝統に基づいてではなく、今ある産業や空間の観点から今一度新たに考えようと思う。

- ② 私は Yes である。私は滋賀の草津出身で、自分が育った町が好きなので、何か地域のためにできないか今も少し考えることがある。私は自然環境に興味があるので、滋賀に残る自然の保全について貢献したいと感じているし、そもそも県外で働くことに強い魅力を感じているわけではないので、大学を出た後に地元に戻って、大学で学んだことを活かし、例えば私は緑地環境科学類なので環境保護や緑地化などの面から草津、滋賀で何かできることを探すのも選択肢の一つだと思っている。

58 解答欄：

「地域を盛り上げることと、一人一人の色を大切にすることが近い。」という考え方がとても良い考え方だと思う。その地域の魅力を発見するために住民（周囲の人）の声に耳を傾けたり、寄り添っていくという行動は、人の魅力を発見するときととても良く似ていることだし大切なことだと思う。誰かの魅力に気付くことはとても素敵なことだと思うので、同じようにまだ知らない地域の魅力を新たに知ることも私たちにとって素敵なことであると思う。

昔に戻る・再生するということに対しては自分とは考え方が違うと思った。自分は活気があったころの現地を知っている人の言葉こそがその地域の発展を進めることができるのではないかなと思う。発展していたころの現地を知らない最近の住人では、その地域をより良くしようと思えることができないと思う。住み始めてからここはこういう所なんだという固定概念があるからである。昔の活気ある現場にいた人達が声を上げないことには、「もっとこの地域の魅力を伝えたい。」とか「若い世代を呼び込もう。」という発想が生まれにくいのではないかなと思う。そして、地域再生において当時を知る人達が何より一番手助けをしてくれる存在になると思う。

ローカルの面白さについてはとても共感できた。

地方就職については選択肢に入る。ただし、公共交通機関が整っているところに限られると思う。高齢者になっても自分の車を運転しないと出かけられなかったり、学校がとても遠くにしかないというような地域は厳しいかなと思う。

59 解答欄：

①就活をしている学生は同級生の4割ほどだということが意外だった。私が描く将来像は普通に就活をして企業に就職するというものだったので、就活以外の選択肢も視野に入れて検討すべきだと思った。

私は小学校まで京都の山奥で暮らし、中学進学と共に京都市内へ引っ越したので人よりかは地方の実態が分かっていると思う。私の小学校時代の友人たちもこの春、大学進学と共に地元を離れて東京や大阪、名古屋に出て行った人が多い。その理由を尋ねると、もちろん「進みたい学部学科があるから」という理由もあったが、「地元を離れたいから」という理由が一番多かった。地方に住む人は程度の差こそあれ都会に憧れを抱いている。それは住んでいる環境が当たり前すぎて、その価値に気づいていないのだと思う。人材を地方に留める、または取り戻すためには就職の際に地方の企業が努力することが必要で、それに加

えて小中学校での地域学習なども充実させるべきだと感じる。

②Yes. 私は都市計画に興味があり、都市緑化やコンパクトシティ構想に携わりたいと考えているので、地方や都市部問わずその仕事ができる企業に入りたい。

60 解答欄：

① 今回の講義を受けて地元や仕事についての見方が少し変わった。例えば私はとても田舎なところに住んでいて、職に就けなくなると大阪などの都市になるだろうと考えていたが、この講義を受けて地元で働くことは自分にとってプラスになることがあると分かった。プラスの例でいうと地元で働いて親孝行だけでなく地元孝行できることや、都会では働くよりも自分自身が成長しやすい環境にあることである。なぜなら地元では人手が足りずに様々な問題が山積みになっているからだ。具体的に私の地域では定期的に強制で地元の草刈りをしなければならないという問題がある。私の親は休みの日がそれで潰れていやだと嘆いているのでいつか私はどうにかしたいと考えている。また私の隣の地域では数十年前までは私の地元のように人口が少なかったのだが、大きな工場が建設されて並びに多くの人がある所に移り住み、住宅街となっていわゆるブランド化したのだ。そして10年ほど前に新たな小学校が増設されるなどの大きな発展を遂げたのである。そして人出が多いと先ほども述べた草刈りなどの作業も業者に任せるということもできるのだ。だから人が増えることはいいことだとこの授業を受けて改めて思った。

② Yes

私は将来地元を先ほども述べた人手不足の問題を解決することによって活性化させたいと感じている。実際私の地域では今ではあじさい園というところがあり、今の時期にちよくちよくアジサイを見に来てくれる人がいたりする。ほかにも様々な活動がなされていてとてもいい地域である。しかし若者は少ないのである。というのはやはり田舎では雇用の人数が少なくまた人手不足からなる、問題（草刈りの強制）がある。よって私はもし地元で貢献できるとしたら、まず問題を解決するところから始めたいと考えている。しかし私は田舎の世界しか知らないので1度は都会で仕事を知りたいと考えている。そして自分が成長して北山さんのように地元に戻り活動ができればいいなと思った。

61 解答欄：

- ① 全体の感想としては、意外というものでした。地方に興味はありましたが、地方はどこかのんびりしていて成長できないイメージがありました。そのため今回の講義は意外に思いました。
- ② Yes：生まれてからずっと都会で生活しており、地方の生活に興味があった。成長できるのなら、地方就職も視野に入る

62 解答欄：

この度は、我々受講者に寄り添った、解りやすいご講演を提供下さいましてありがとうございます。授業の動画及び資料を拝見することで、将来就職活動をはじめとする意思決定を行う際に、私たちが持つべき姿勢について、地域の見方をもとに学ぶことが出来た気がいたします。

ひと通りの受講を終えて、私が抱いた気持は、自身の価値観を認めて下さる方々や場所が確かに存在している、という安堵感であったように思います。今回のお話では、社会の現状に屈して競争に巻き込まれ、夢半ばで諦めるのではなく、考え方を変えることで、一般に人気の低い地方で働くことを検討し、それが都心部でない地域の発展につながる、とのことでした。まさに私も、そのような観念が普及すれば良いの

ではないかと、少年ながらに思っておりました。ところで、今回学んだことを、自身のこれまでのわずかな経験に対して適用できると感じたことがあります。個人の感想ということで、私事を恐れ入りますが紹介させていただきます。私は今年(2021年)四月に入学させていただきましたが、これは高校を卒業した一年後でございます。それにも関わらず、未だに大学に進学することの意味を見いだせておりません。以下は単なる事実すぎませんが、私の出身高校では、卒業後進学せずに就職する人は数年に一人いるかいないかで、最終的には卒業生の約半数が、最難関といわれる大学に入るようです。しかし、私は大学で学ぶことにはどうしても魅力を感じませんでした。進学が将来の収入の期待値を上げる以外に見当たらない為、大学進学が望んでも不可能な境遇の方々に本当に申し訳ない一心ですが、周囲の意向には抗えず、不本意ながら現在に至っております。しかしこれは丁度、今回学んだ、今あるものに感謝する姿勢を持つことを実践する機会であると気付きました。つまり、自由な時間が与えられているということを素直に認め、自身が参画できる活動等が無いかを積極的に考えるようにすることです。

根本にあるものは、競争に対する嫌悪感です。私は将来、機械化や能力の低下でいつ淘汰されるかも分からない環境で仕事をするのではなく、比較的人手不足が懸念される仕事に就き、社会の役に立つ人間になることを望みます。このような性格上、「地方就職」は、自身が将来求職する場合に、選択肢として能動的に充分取り入れられると思います。(②の問いに対する回答は「Yes」となります。)ちなみに、私は誕生以来大阪府に在住していますが、なるべく近畿圏で職に就くことができますと幸いです。例えば、先生が活動拠点にされている滋賀県は、京阪神地区との往來の利便性も高く、自然が豊かでありながら都会的な面も持ち合わせているため、好感をもつことが出来ます。

まだお伝えしたいことはありますが、既にかなり長文となりましたので、今回はこれにて切り上げさせていただきます。最後までご覧下さいまして、ありがとうございました。

6 3 解答欄：

- ① 今回の北川さんの講義は、これまで受けてきた地域再生概論とは一味違う講義でした。特に印象に残ったのはやはり、講義の趣旨でもある2枚目のスライドに大々的に乗せられた「ありがとう」という文字でした。また地域再生に大切な「価値づけ」ポイントのスライドでもおっしゃっていた、今あるものに感謝するという考え方は、地域を再生させるための大事なスローガンであると感じました。地域を再生させるだけだったら、今都市部ではやっているものを地域に取り入れればそれなりの効果が得られると思います。ですが、北川さんがおっしゃっていた今あるものを大切に伸ばす考え方は、地域の伝統文化や、食文化を継承させるだけではなく、地域の人々との関りをより根深くするものだと感じました。
- ② 今回の講義から、地方就職の魅力を知って、地方就職も意外とありなんじゃないかと感じました。理由としてはやはり、地方には課題が山積みで、それに対してどのような考えで対処するのかを、自分で考えなければいけないという点があるからです。北川さんもおっしゃっていた大きな会社は安定しすぎていて、やりがいを感じれないので、人とのコミュニケーションが好きな私にとって正直あまり魅力を感じないものでした。ですが、地方就職の、人とのコミュニケーションから、地方の課題を解決していくスタンスは魅力的でした。ですので私は地方就職を選択肢に入れることはアリです。

6 4 解答欄：

① 全体を通じての感想／印象

どうしても共通の価値観に囚われてしまう就活に疑問を投げかけたり、そもそもの「地域再生」をする上での価値づけとは何かといったところを定義したりというような、先生の新しい視点に

興味を抱いた。なぜローカルが面白いかという部分もただいい点だけ押し付けるのではなくデメリットすらもメリットとして捉えるような解説は非常に面白く、自身の将来のことを考えてみようという契機になる講義であったと感じる。

②「地方就職は選択肢に入るか？」

Yes/No と、その理由

Yes

私は物心がついてからずっと大阪に住んでいるために、大阪以外の（言ってしまうと田舎の）地方で住むことのデメリットを知ることができていないと感じる。

しかしながら地方での就職には、動画でもローカルが面白いと仰っていたように大きなメリットがあると考えるため、今回は地方就職に Yes を示した。東京に行って本社勤務をするといった漠然なイメージはあるものの、自分には地方でもやっつけられる自信があった。

6 5 解答欄：

全体を通じての感想

私は地方就職についてはそこまでネガティブなイメージは持っていなかったが、プラスかマイナスでいうとやはりマイナスのイメージを持っていた。理由としては、都市部に比べて活気がないのではないかという思いがあったからだ。実際、祖父も兵庫県の豊岡市に住んでおり、やはり大阪や兵庫県の南のほうと比べると活気はないと思う。そういったところで住むのはあこがれるが働くのは面白くなさそうだなと思っていた。

しかし、本講義を聞いて、地方で働くのもデメリットだけではないのだなと感じた。お金も暮らしていく分には困らないし、地方特有のコミュニティもあるということで、人間関係も充実させることができそうであるので、地方で働くことに関して興味も沸いた。そういった意味で本講義は大変興味深いものだなと感じた。

「地方就職は選択肢に入るか？」

部分的に YES

理由

地方で働く利点は理解したが、やはり都市部で働きたい。都市部のほうが何においても便利だからである。もちろん、地方でも生活には困らないと思う。しかし、仕事で都市部に出ることになったときや、観光に行こうと思った時でも交通網が発達しており、娯楽施設も充実している都市のほうが圧倒的に便利を感じる。

しかし、本講義を聞いてみると地方のは地方の都市部とは違った良さもあると分かり、地方で働くのも面白い選択ではあるのだろうなと感じた。そういった意味で部分的に YES という結論に至った。

6 6 解答欄：

①地方は魅力がなくて、これから衰退していくばかりというイメージが大きく覆りました。特に、再生の言葉に関する内容はとても印象的でした。「地方は別に死んでいるわけでもないし、価値がないわけでもない、伝わってないだけ」そんな視点を忘れず持ち続けたいと思いました。

②YES

理由：都会に住んだことがなく、勝手なイメージにはなりますが、都会はせかせかしていて、地方はゆったりしているというイメージがあります。せかせかした空間にいるのはしんどいので地方に将来も住みたいと思っています。他の理由は、都会じゃないとで着ないことがだんだん減ってきており、地方だから不便ということを感じていないからです。マイナスな面がないことが理由になっているので、地方の魅力これから見つけていきたいです。

67 解答欄：

まず、地域に価値がないのではなく、知らない・伝わっていないだけだ、という考え方が印象に残っている。私は住宅街に住んでいるが、そもそもここに住むようになったのは同じ地域に住む祖父母の介護のためだった。町内には駅もなく線路も通っていない、近所のスーパーも閉じてしまう、幼稚園・小中学校までしかないような田舎で、地元の学校に通っていた当時は「祖父母がいるから越してきただけ」「何もないところ」と思っていた。しかし、大阪の学校に進学して、少しずつ自分の町が好きになってきたように感じる。静かで落ち着くし、移動に車は必須だが、最寄り駅は存外色々なところへアクセスしやすい。住みよい町だと思っている。今回の授業で改めて気づいた。もう一つ気が付いたが、地元で就職するという観点での魅力はまだ気が付けていない。身近だからこそ、自分の町の魅力の発見は困難だと感じている。

もう一つ、地域「再生」についての考え方も印象に残っている。昔には戻れないし、戻ったとして、それが果たして今の時代・人々にとって良いものかは分からないと思う。今のニーズに合わせて、できるだけ地域の魅力も尊重しながら、地域を歩ませて行くことが重要なのだと思った。

地方就職は選択肢に入る。私は私の町が好きで住み続けたいと思っている。また、自分の町の一員として活躍できることには魅力を感じる。しかしながら、望むように活躍できるのか、そもそも働き口があるのか、という疑問がある。同級生の間でも、私の町で地方就職するなら町役場か先生かぐらいのものだという考えがある。地方就職自体には肯定的な考えを持っているが、実際問題可能か、望ましいかと言われると頷けない部分も否めない。

68 解答欄：

- ① 地域再生という言い方が、一回衰退している前提だということや、昔はよかったのにというニュアンを含んでいるとおっしゃっていたことが印象に残った。魅力が無いから一からつくるのではなく、地域に元々ある魅力を発見し、価値づけするという視点が重要であると感じた。一からつくるよりも地域の本来の魅力を引き出したほうが地元の方も嬉しいだろうし、地域にマッチしやすい、受け入れやすいのではないかと思った。
- ② 私は地方就職も視野に入る。特に地元で仕事をしたいと考えている。小さいころから住んでいた町はやはり思い入れが強い。地元で就職して地域の発展や地域の人々の助けに貢献したい。また、今回の話を聞いて、地方にも都会や大企業とは違う魅力があることがわかった。特に人とのつながりは大事にしたいので、地方の就職は自分にとってもプラスになるのではないかと思う。

69 解答欄：

- ① 今回、「地域に住み、地域で働く人を増やすために」という授業を受け地方の魅力を考えるきっかけになった。韓国ではソウルにインフラが集中していて人々は他の地方には関心がなくなり、ソウルで働いたり、住んだりする傾向がある。私もずっと韓国の首都であるソウルに住んでいたため、韓国で

は何でもソウルが一番だと思い込んでいた。しかし、今回授業を受けて、それは偏見だったということに気付かされた。特に、地方が面白いと言う北川さんの考えが非常に印象的であった。世の中のほとんどの人が都会に行かないと置いていかれる、成長できない、お金を稼げないと言っているが、それを逆転の発想で、地方にもいい会社はいっぱいある、面白い人も多い、成長できる、しっかり稼げる、暮らしも豊かになると言って、さらに自らの価値を高める。中々できない発想だと思い、そういう発想を見習いたいと思った。また、日本は韓国と違い、地元が地方であっても地元が好きな人が多いイメージがあるが、それは北川さんのような人の努力の結果なのではないかと思った。

- ② 私は上記で述べたようにソウルで生まれてソウルで育った。都会が地元であるため、地方就職は今まで全く考えたことがなかった。しかし、本日の授業で地方にも様々な魅力があることがわかり、もし地方にも私に合う仕事があるなら地方就職でもいいと考えるようになった。ただやはりスタートアップは一から十まで全部自分がしなければならぬというイメージがあり、会社を成長させるためには個人個人の能力が必要だと思うが、私にそれができるかどうかは少し疑問である。

70 解答欄：

- ① 私は今まで就職に関して、都会と地方についてあまり考えたことがなかった。どちらかというとも都会の方が職業の幅が広く、生活費が多くかかる分給料も高い、というイメージがあった。しかし今回の講義を受けて、地方で就職することで、やりがいを感じたり、様々な課題と向き合えることで自分自身の成長に繋がったりと、都会の企業にはない魅力が多くあることを知った。これらのことをアピールしている県もあるみたいなので、その情報をもっと多くの若者に伝わり、就職活動の際の参考にしてもらえれば、地方の企業の活性化に繋がると考える。
- ② 私は地方就職は選択肢に入る。私の地元は広島県の尾道市というところで、大学卒業後はそこで就職したいと考えている。理由は、自分を育ててくれた町で働き、恩返ししたいという思いがあるからだ。教育に携わりたいと考えているため、子どもの数が少ない地方よりも子どもの数が多い都会の方が需要は高いだろう。しかし、自然に囲まれた田舎だからこそできる教育があると思うし、それを大切にしていけばいいと考えている。自分が18年過ごしてきた中で気づいた課題があるからこそ、大阪に進学したからといって大阪で就職するのではなく、ここで得た知識や経験を地元を持ち帰り、貢献したいと考えている。

71 解答欄：

1. 全体を通じての感想 / 印象

地域の魅力を「再発見しよう」というスタンス自体に、「昔はよかったのに」という前提があるだろうという指摘がとても新鮮でした。確かに、今を生き未来をつくっていく私たちにとって、これからの地域づくりで大切なのは、まっすぐ目の前の問題に取り組むことだと感じます。

また、地域づくりの活動における「価値付け」の考え方も印象的でした。価値がないのではなく、伝わっていない、価値に気づいてもらうためには共感を作ることが効果的である、などの指摘は、これからは地域再生について考えていく上でずっと忘れないでいきたいです。

2. 地方就職は選択肢に入るか？

Yes

大都市で就職することや大手の企業に就職することが、必ずしも充実した生活を送るための条件になる

とは思わないからです。自分がしたいことをできる環境を見つけられたら、地方就職も選択肢に入るだろうと考えます。

7 2 解答欄：

1. いろあわせのプロジェクトの内容を見て、滋賀の魅力の再発見を目標に掲げてこんないろんなことができるということに驚いた。地域再生するためには、その地域についてよく知っていることが大事だと思ったし、それらを活用するスキルも必要だと思った。
2. 地域就職は選択肢に入る。なぜなら私は直接人と関わる仕事のほうがやりがいがあって面白そうだと思うからである。また、大学入学してオンライン授業になったときに、パソコンを使いこなすのはやっぱり難しいと感じた。だから、人によって使いこなせる具合が違うパソコンを相手に使わせたりする仕事は、相手が手こずってしまい、スムーズなやり取りがしにくくなるのではないかと思った。

7 3 解答欄：

- ① 私は今まで高校名や大学名の肩書が大事だと教わってきたので、これまでの受験の結果にとっても悔しい思いをしてきました。肩書がすべてなどと高圧的に育てられてきたわけではないですし、好きなことも十分にさせてもらってきましたが、やはりそこに少しの執着は感じてきました。姉も同じように育ったから、今東京の企業に就職し家を出ました。姉はとてもステキでかっこいいですが、私は勉強もあまり得意じゃないし大企業に就職したいという希望も今はまだありません。なので北川さんのように私の意見を肯定するような話がきけてとても安心しました。やはりいい大学に入っていい企業に就職するといった考えがまだまだ強すぎる気がするので、もっと個人の個性を尊重した社会を作りたいなと改めて思いました。能力の有無だけで判断するような社会は嫌です。能力のある人はそれが有利ですが、あまり何事もうまくやれず時間がかかってしまう人の気持ちがわかるのでいろんな人に有利な社会が広がればいいなと思いました。
- ② 大阪が地方なのかかわからないけど、私は大企業に就職したいというような強い思いはまだ持っていないし田舎暮らしにも興味があるのでこの問いに関しては Yes という答えが適していると思います。しかし私は海外に魅力を感じているため、はっきり Yes と答えられるかわかりません。自然が好きなので田舎暮らしも憧れますが、日本の空気に息苦しさを覚えることがあるのでとても海外移住に惹かれます。しかしずっと住んでいる大阪をはなれ、あたらしい場所で何かを経験することはやってみたいことだし、必要なことだと思います。